

前回までの検討内容と細野構成員提出資料との比較

参考 1

1. 総単位数、最低履修時間

事項	追加する教育内容	前回までの検討内容		
		教育分野	単位数	時間数
高齢者及び競技者の生理学的特徴・変化	高齢者の生理学的特徴・変化	専門基礎分野	1	15
	競技者の生理学的特徴・変化	専門基礎分野		15
柔道整復術適応	診断と適応（総論）	専門基礎分野	4→2	120→60
	各部位の外傷、疾患の適応（各論）			
	臨床所見からの判断			
保険の仕組み	受領委任払いの方法等	専門基礎分野	1	15
職業倫理	柔道整復師の役割と倫理	専門基礎分野	1	15
外傷の保存療法	外傷の保存療法	専門分野	1	30→15
	ギブス除去の時期の判断			
	軟部損傷の治癒時期の判断			
	骨折後骨癒合時期の判断			
物理療法機器の取扱い	物理療法機器の取扱い	専門分野	1	30→15
	物理療法機器の原理			
	物理療法機器の人体への生理作用			
臨床実習		専門分野	3	135
競技者の外傷予防	—			
高齢者の外傷予防	—			
合計			12	375→345

想定時間数	現行実施内容	
	科目	
8	リハビリテーション医学、病理学概論	
8	運動学、リハビリテーション医学	
112	整形外科学、外科学概論、一般臨床医学	
—		
12	衛生学・公衆衛生学、関係法規	
12	衛生学・公衆衛生学、柔道整復の歴史	
168	基礎柔道整復学、臨床柔道整復学、柔道整復実技	
16	リハビリテーション医学、柔道整復実技、臨床実習	
4	基礎柔道整復学	
340		

細野構成員提案			
教育分野	単位数	時間数	追加する教育内容
専門基礎分野	1	15	高齢者の生理学的特徴・変化
専門基礎分野	1	15	競技者の生理学的特徴・変化
専門基礎分野	1	15	病態や検査所見、検査所見上の鑑別点
専門分野	1	15	柔道整復術適否の臨床的判定
専門基礎分野	1	15	療養費の意義および受領委任払の方法 柔道整復師の倫理
専門分野	1	15	外傷の経過と治癒判定
専門分野	1	15	物理療法機器の原理および生体反応
専門分野	3	135	
専門分野	1	15	柔道整復師としての競技者に対する外傷・障害予防
専門分野	1	15	柔道整復師としての高齢者に対する外傷・障害予防
	12	270	

(現行)		(前回までの検討内容)	
基礎分野	14単位		14単位
専門基礎分野	32単位		3739単位
専門分野	39単位		4644単位
合計	85単位		97単位
			2,8252-855時間

(細野構成員提案)	
	14単位
	36単位
	47単位
	97単位
	2,750時間